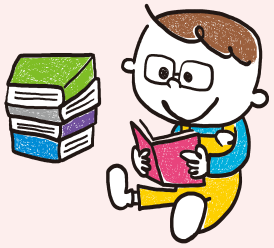
ISSN 1344-5154

静岡県図書館協会会報

No.88　令和８年10月１日発行

編集・発行　静岡県図書館協会　静岡市駿河区谷田53番1号　静岡県立中央図書館内



静岡県の図書館のちから

静岡県図書館協会会長
静岡県立中央図書館館長　渡辺　賢一



今年度、静岡県立中央図書館の館長を拝命しました渡辺です。あわせて、静岡県図書館協会の会長も務めさせていただくことになりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

昨年度、新県立中央図書館の整備方針が一旦見直されることになったのを受け、今年度、基本構想の改定に向けた有識者会議が４回にわたって行われました。さる９月 17 日に最後の会議を終えたところですが、いずれの会議もテレビや新聞などで大きく取り上げられ、県民の方々の注目度の高さをあらためて感じました。

会議では、新県立中央図書館の役割や意義についての意見交換もなされましたが、その中で、現県立中央図書館の長所を継承することが重要であるという意見とともに、図書館に関して、静岡県は先進県であり、その良さを引き続き支えられる図書館であってほしいという意見も出されました。会議資料には、静岡県内の図書館の良さに関連するものとして、毎年開催される静岡県図書館大会の規模の大きさや充実した内容についての言及もありました。

今年度の静岡県図書館大会は、12 月７日（月）に JR 東静岡駅に隣接するグランシップを会場に開催されますが、さる４月に行われた県図書館協会総会にて、令和 10 年度には、全国図書館大会が静岡県で開催されることが承認されました。全国大会の本県での開催に当たっては、毎年の県図書館大会の内容の充実度、参加者の多さや盛況ぶり、運営状況などが評価され、日本図書館協会から依頼を受けたことが契機となったと伺っています。そのような評価をいただいていることを嬉しく思うとともに、県内図書館間の協力体制が築かれているからこそ、こうした大会が実施できていることを考えると、大変ありがたく、また心強く感じています。そして、この協力体制は、一朝一夕に構築できるものではなく、長い年月をかけて培われた、言わば静岡県の財産の一つではないでしょうか。

現在、スマートフォンや SNS の普及、AI の進化など、情報を取り巻く環境が大きく変化する中、本離れ・読書離れを危惧する声をたびたび耳にします。図書館を取り巻く環境も変わりつつあり、新たな県民サービスの在り方も求められています。そのような状況の中、図書館の役割や使命を十分に果たしつつ静岡の未来を切り拓いていくうえで、静岡県内図書館の協力体制は大きな力になると考えています。今後とも、県民の皆様の期待に応えられる静岡県の図書館を目指し、力を合わせて取り組んでまいりましょう。どうぞ、よろしくお願いいたします。

文部科学大臣表彰

伊豆市立図書館

本とともに子どもたちを育むまちを目指して

～伊豆市立図書館の読書活動～

伊豆市立図書館は、修善寺図書館を中央館とし、土肥・天城・中伊豆の三分館体制で市民の身近な読書環境を支えています。「本とともに子どもたちを育むまち－伊豆市」の推進計画に基づき、当館では図書館、学校、子育て支援課、地域が一体となり、子どもの成長段階に応じた読書活動を推進しています。

乳幼児期には、７か月健診でのブックスタートをはじめ、おはなし会やベビータイム、季節の工作教室を実施しています。さらに、子ども園や放課後児童クラブ、子育て支援センター、地域サロンへ出向く「出前おはなし会」にも注力し、令和７年度は 152 回開催し、3,077 人の参加を数えました。



また、親子が安心して利用できる環境づくりとして「カルガモタイム」を設定しています。おはなし会等が行われる午前中を中心に、子どもの声への理解を来館者に呼びかけるもので、「保護者が周囲を気にせず気兼ねなく過ごせるようになった」と好評を得ています。


小さい子のおはなし会


絵本ワールド in 静岡

さらに、小さいうちから本物に触れる機会として、絵本原画展や作家によるワークショップ、「絵本ワールド in 静岡」などを開催し、本や作家との出会いを生み出しています。就学期以降は、学校と連携して「伊豆市の子どもにおすすめの本百選」を選定し、読破賞を設けることで良書との出会いを後押ししています。


江口ノリコさん貼り絵のワークショップと原画展

今後は、これらの取組を子ども自身の「読みたい気持ち」へとつなげていくことが大切だと考えています。子どもの興味・関心に寄り添った本の紹介や展示を工夫し、自分で本を選び、読んだ楽しさを誰かに伝え、次の一冊を探したくなる環境と企画を整えていきます。

学校、家庭、地域と手を携えながら本との出会いをつなぎ、子どもたちが「本を読みたい」「また図書館に行きたい」と思える場所を、これからも地域とともに築いていきます。

伊豆市立図書館　館長　坪内　逸夫

リニューアル図書館紹介

浜松市立西図書館

鉄道と遺跡の図書館へようこそ



西図書館外観

浜松市立西図書館は、昭和54年4月1日に開館、令和7年3月31日までの45年間、地域の皆さまに親しまれた旧西図書館を一時休館し、3か月後の令和7年7月1日、「一条スマートタウン」内に移転リニューアルオープンいたしました。



新着図書コーナー



鉄道資料展示



児童コーナー



郷土資料コーナー

新しい西図書館では、児童書架と一般書架・閲覧席のコーナーを明確にゾーニングしており、児童コーナーでは小さなお子さま連れのご家族も気兼ねなく、のびのびと過ごしていただけるようになりました。また親子で使えるバリアフリートイレ、授乳室を設け、赤ちゃんと保護者の方が安心してお使いいただけるよう配慮されています。

2階部分が閲覧室となっており、新たに座席予約システムを取り入れ、ご自宅から事前予約が可能となりました。来館したけれど館内が混み合っていて、座る席がない…といったことがなくなり、落ち着いた静かな環境で資料の閲覧や調べ物ができます。1階部分と合わせて87席の閲覧席を設置しておりますが、週末は学生のみなさんのみならず一般の方々のご利用でほぼ満席の状態です。

西図書館の東側にはJR東海浜松工場が隣接していることから、鉄道や新幹線の関連書籍を充実させています。児童コーナーの書架案内サインは電車の形をしており、のりものが大好きなお子さまたちに人気です。毎年、鉄道関連のイベントを開催、合わせて資料展示をおこなっています。

また図書館の立地は「伊場遺跡群」の中にあります。このことから、郷土の遺跡の重要性を知っていただくため、浜松市博物館の協力を得て、遺跡から発掘された土器類を郷土資料とともに館内に常設展示しています。同時に、博物館館長、職員の方々に講師をお願いし、考古学講座を開催。毎年大好評となっております。

そのほか一条スマートタウン内の商業施設やこども園、近隣の施設等と連携を深め、これからも地域の皆さまにより一層親しまれ貢献できる図書館を目指してまいります。

浜松市立西図書館　館長　畑久美子

加盟館取組紹介

浜松市立都田図書館

「文豪総選挙×乙女の本棚」





しおりは 20 種類、ブックカバーはリバース仕様で 5 種類用意した

浜松市立都田図書館は、のどかな田園風景に囲まれた新都田地区に建設され、高い建物がないため星がとてもきれいに見えます。この辺りは、中高生が集まる場所はないため、試験期間になると、館内の学習利用席は朝から満席になります。中高生の大半は、保護者の車で来館するため、迎えが来るまで行き場もなく終日図書館で過ごすことになります。

令和５年度に中高生の居場所をつくりたいと思い、児童書架に「YA コーナー」を設置しました。しかし、児童書架はカウンターの目の前であり、小さい子供たちに混じって本を読むことに抵抗があったのか、ほとんど中高生を見かけることはありませんでした。

翌年、最も中高生が学習利用する研修室の前にコーナーを移しました。ここは他の書架から少し離れていて、人目を気にしなくてもよいこともあり、勉強の合間に立ち寄っている姿が見られるようになりました。ようやく定着してきた YA コーナーですが、なかなか貸し出しには結び付きませんでした。

YA コーナーでは、文豪の名作に話題のイラストレータの書下ろしイラストが全ページに描かれている『乙女の本棚』（立東舎）シリーズを所蔵していました。そこで、令和 7 年度に好みの文豪に投票してもらう「文豪総選挙 × 乙女の本棚」を行いました。

期間中は立東舎にご協力いただき、書影と文豪のプロフィールを掲示し、館内の大きなガラス展示では、作品の挿絵原画展を実施しました。また、文豪作品を借りた利用者には、作品の一文が書かれたしおりをプレゼントしました。さらに、投票終了後からは、上位 3 名の文豪作品が原稿用紙に印刷されたブックカバーを差し上げました。

約 1 カ月半で、延べ 639 名の参加がありました。参加した中学生からは、「しおりもブックカバーも全種類制覇したかった」とうれしい言葉もよせられました。これからも YA コーナーを広めるしかけを作っていきたいと思います。

浜松市立都田図書館　館長　岡田　希



文豪のプロフィールと書影を掲示



挿絵原画展